

共に育ち、共に育み合うということ



共育誕生のきっかけ

神奈川W.Co連合会が設立されたのは、1989年9月。この時、県下にはたったの25団体、メンバー数は約1,000人の組織でした。自ら出資し、経営に参画し、労働も担うというそれまでにない働き方で、組織運営も事業経営もそれぞれのW.Coが試行錯誤で行って来ました。その培ってきたノウハウをバラバラに持っているのではなく、お互いに情報交換して知識や技能を高め合いW.Coを社会化していこうという目的が共育誕生につながりました。

共育の歴史

1990年代から2000年代初めは毎年10団体以上のW.Coが新規に設立され、20年間で、約265のW.Coが新たに誕生しています。地域に必要な事業やサービスを生み出したものの、事業や組織の運営は、素人。そういう中で、連合会は、経理やパソコンのスキルアップ、組織のマネージメントなど共通して必要な知識やスキルを学ぶ講座を組み立てたり、業種ごとのマニュアルなどを作成したりして来ました。一人ひとりが経営者でもあり、労働者でもある働き方のW.Coにとって、民主的な会議運営やメンバー募集などに有効なチラシ作成講座など、定番ですが、常に必要とされています。

これからの共育

設立から30年、「共育」は連合会の最も重要な役割として位置付けられてきましたが、現在、単体W.Coでもその機能を持ち、また地域の同業種の集まりや運動グループの集まりも多様になりました。特に社会状況が悪化する中、W.Coの規模も業種もさまざま課題も複雑化している

現在、全W.Coに共通する講座は「共育・研修委員会」が企画していますが、業種に特化した部門会議の学習会や、地域W.Coリーダー会議でも必要な講座や学習会を考えて企画し、開催していくことができます。連合会ではさまざまな団体とのネットワークがあることで最適な講師を探せたり、本来ならば講師料が高い専門講師に頼めたりできるのも連合しているからこそです。みなさんの企画を連合会が支援します。

現状では、「共育」のあり方も変えていくことが求められています。同時にお手本のない働き方の私たちには、W.Coならではの事業運営や、メンバーの合意形成の方法についての情報交換や学びが、今まで以上に必要とされています。

これからも、自分たちに必要な学びを自ら組み立て・実行することで自分たちの力を向上させることができる大切な仕組みとして、みんなで「育み合って」いきましょう。

2021年度 会議メンバーの意見交換から生まれた講座・学習会

安全運転実技研修

かながわ福祉移動サービスネットワークに講師を依頼。食部門のW.Coに向けて開催。(講師謝金は、連合会負担)、5団体が開催予定

理事長・代表のための経営学習会

W.Coのトップリーダーは交代して担い合うため、経営マネージメントの学びが必要です。今年度はそこを重視し、完全オンライン開催中(4回目は2/10AM)

介護保険制度加算の学習会

デイサービス部門(服部万里子先生/開催経費連合会補助有り)

開催してみました

共育講座・学習会 開催までの流れ

デイサービス部門「介護保険学習会」

きっかけ

デイサービス部門では、介護保険勉強会チーム4名に運営委員が加わった話し合いで「2021年4月介護保険加算について不明点がある」、「非営利のワーカーは加算を取れるものは取ってもいいのを考えてしまう」との意見が出され、介護保険制度に詳しい人を講師に学習会を開催する!と決めて企画を検討しました。



準備

講師を決める

「介護を崩壊させない実行委員会」でもお世話になっている服部万里子先生に依頼。

アンケートを取る

メンバーがどんなことを知りたいのか、服部先生にどんな話をしてもらいたいかなど伝えるためにアンケートを取った。「加算を取るときの課題について知りたい」という質問が多かったため、そこを軸に講義をしていただくことに決定。

当日の流れを考える

11月4日に勉強会チームで打ち合わせを行い、テーマと内容を決めて、チーム長が事前に服部先生と打ち合わせる。

開催

部門会議前に開催

学習会では、介護保険の成り立ちから現在までの流れや、「介護」ではなく「自立支援」が評価の基準になっているという改正点のポイントが理解できました。加算を取らないと事業高が上がらないことに加え、加算を取るためにはメンバーの勤続年数の把握と、継続して働ける環境をつくる。介護福祉士などの資格取得のための人材育成計画を立てる必要があることを学びました。今後国が進めているLife(科学的介護情報システム)に参入していないと事業継続が難しいと思われるが、講師には焦らず様子を見てもよいのではないかとアドバイスを受けました。

参加した人の感想

- メンバーに資格を取得することの大切さ
- 重要性を伝えたい
- 事業所でこれから何をしていく必要があるかを共有していきたい
- 学習会の内容をミーティングでワーカーに伝えます

終了後

学習会で今後の課題がはっきりした

- ①非営利・市民事業の運動グループが向かう参加型福祉の方向性を探る。
- ②ICTの活用やlifeを何のために行うのか目的や方向性について一致を図る。
- ③単体W.Coの事業拡大計画づくり、事業継続のためのメンバー拡大、そのための人材育成計画を持つ。

この3つについて部門内で議論を深め、身近な問題として外に向けて情報発信もしていきたいと思えます。

